

平成20年度第3回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成21年3月24日（火） 14時00分～15時45分
開 催 場 所	いわき市役所本庁舎 8階 第8会議室
出 席 委 員	大川会長、飯田委員、石川委員、岡田委員、神崎委員、佐藤委員、鈴木（正）委員、鈴木（司）委員、高木委員、武田委員、長沼委員、広木委員、山野辺委員、和田委員、藁谷委員
事 務 局	生活環境部 環境整備課 吉田浩部長、緑川次長、吉田寿課長、澤田主幹、遠藤リサイクル係長、園部主査、高木事務主任、草野事務主任、稲野邊環境整備係長、佐藤環境施設係長
議 題	1 平成20年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）について 2 議事 (1) 平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績見込みについて（報告） (2) 平成21年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画（案）について (3) その他
配 布 資 料	① 平成20年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案） ② 資料1 平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績見込み ③ 資料2 平成21年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画（案） ④ 参考資料 一般廃棄物処理実施計画の法的な位置づけ

主 な 審 議 内 容

【会議の成立等について】

(1) 会議の成立

事務局から、「委員18名中15名の出席があり、いわき市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第31条第2項の規定による過半数を満たしており、会議が成立していること」が報告された。

(2) 審議の公開

公開による審議について、委員から承認された。

(3) 議事録の記述形式

議事録の記述形式については、「要点記述方式」によることが承認された。

【前回議事録承認】

事務局から提出のあった「平成20年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録（案）」について、原案どおり承認された。

【今回の協議事項】

(1) 平成 20 年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の実績見込みについて

リサイクル係園部主査から資料 1 について説明があった後、質疑応答となった。

○ 神崎委員

1 ページのごみ排出量の表で、資源ごみが計画量より少なくなる見込みであるということ影つきになっているが、これはよいことなのか悪いことなのか。

○ 園部主査

ごみ全体の量が同じであれば、資源ごみが増える方が、リサイクル率の向上にもつながるためよいことになるが、ごみを全体的に減らしていこうとしている中での話であるため、計画値を下回ったことをもって目標達成と整理させていただいた。

○ 大川会長

資源ごみを多くした方がよいということになると、ごみを減らすのではなく増やしましょうという議論になりかねないということである。

○ 石川委員

資源ごみという言い方だがこれはごみではない。増えたほうがよいのでは。

○ 大川会長

例えば貴金属を含む「都市鉱山」などがあり、コスト比較しなければわからないが場合によっては回収して資源ごみを増やすという施策があるかもしれない。

ただここでは資源ごみと大きくくりにしており、個々の施策には触れていないので減らすということではよいと思う。減量審議会でもある。

○ 佐藤委員

5 ページの (6) で埋立量の削減とあるが、埋立処分場の延命効果はどのくらいか。

○ 吉田課長

19 年度の数字で飛灰によるものが約 3 年、他にびん残差や金属キャップ、またここには記載していないがプラスチックを埋立から焼却に変更したことにより、かなりの延命効果が出ていると考えている。

○ 佐藤委員

2 ページ (2) 関連で、集積所に張り付けた持ち去り禁止シートであるが、やぶけてしまう場合がある。

○ 吉田課長

市と古紙組合が相談を行い、古紙組合が配布したものであるが、急きょ持ち去り対策として実施したこともあり、今後改善を検討していきたい。

○ 鈴木（司）

3 ページの (4) の分析結果で生ごみや竹木類とあるが、現在焼却しているのか。

○ 遠藤係長

燃えるごみとして出されるものであり、焼却している。

○ 鈴木（司）

提案として生ごみは地区ごとに堆肥化する方法もある。そうすれば市が収集する必要は

ない。それから古紙類はリサイクルされているのか。

○ 園部主査

本来リサイクルされているが、ここに載っているのは間違って燃えるごみに出された分である。

○ 大川会長

量的・質的にある程度まとめれば資源化の可能性もでてくる。いずれ他の事業やプロジェクトも活用して行ってほしい。

○ 鈴木（司）

事業者として年2回草刈りをやるが処理に相当のコストがかかる。資源化が出来れば税金も使わなくても済むと考えたところ。

○ 大川会長

収集や選別にもコストがかかり、例えばNPOのために新たにこれらを行うという施策はなかなか取りがたいと思うが、資源化の意識や考え方を持つことが重要である。

○ 藁谷委員

竹木類のリサイクルは実際難しく、団地や地域内で知恵を絞るとというのが現状というか限度なのではないか。行政の役割とのバランスが大切だと思う。

○ 大川会長

資源化しようとしたら行政が全部持って行ってしまったということでも困る。

○ 藁谷委員

また、細かな紙は袋に入れて燃えるごみとして出しているが、古紙としてリサイクルできないものかと思う。

○ 石川委員

リサイクル率が高い自治体がそうだが、処理の流れの中で飛灰処理などのリサイクルをかけていくという考え方もある。

○ 飯田委員

引っ越し時など古紙類がたくさん出るときがあるが、古紙回収は月1回である。間に合わないで燃えるごみに捨ててしまうときもある。せめて2回あったらよいと思うが。

○ 吉田課長

年々古紙回収量が減っていることや収集コスト等を考えると、複数回は難しいと思われる。ただ、収集日以外でも、収集や持ち込みを古紙業者に直接問い合わせさせていただくことは可能なので、そのような対応でお願いできればと思う。

○ 大川会長

最後に次の4つの質問・意見がある。

①2 ページのレジ袋削減で対象事業者・店舗の拡大を図っていくとあるが、今後の見通しはどうか。

②同じく2ページの持ち去り行為への対応で条例改正が報告となったが、審議会を開催せずとも、持ち回りや郵送でもよいかから事前に知らせていただくと会の運営がより活性化すると思う。今後はそういった点も配慮していただければありがたい。

③3 ページの組成調査で定期的にやるのかどうかと、どういった使われ方をするのかという点について。

④1 ページの総括表で3,210トンの削減が見込まれるとあるが、可燃ごみについては計画

値が高い感じもするが全体としては実績として評価してよいと思う。

○ 吉田課長

①について：4社34店舗以外にもレジ袋削減の意見交換会に参加していただいた事業者があり、そのような事業者に働きかけて拡大を図っていききたい。

②について：前回問題提起ということでお話はさせていただいているが、今後こういったケースの場合は会長ご提案のとおり、持ち回りなどの対応を取らせていただきたい。

③について：定期的に実施しており、これまで主に都市部を対象に地区を限定したかたちで行ってきた。今後は中山間地域も対象とすることを検討しながら対応していききたい。活用方法については、施設への影響などを正確に反映させていくといったところまでは整理されていないので、今後の宿題とさせていただきたい。

○ 鈴木（司）委員

2月からはじまったレジ袋削減が年間では325トン見込まれるということだが、ごみ全体の削減量約3,200トンの1割程度になる。まだ参加していない事業者もあるので拡大を図っていただきたい。

(2) 平成21年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画（案）について

リサイクル係園部主査から資料2、参考資料について説明があった後、質疑応答となった。

○ 大川会長

3ページの表だが、21年度と22年度で比較するとトータルで15,000トン、可燃ごみで17,000トン減らす必要があるが、可燃ごみは難しいと思われる。また、家庭ごみの減量は教育の問題でもあり急に意識が向上して減量するということにもならないと思われる。来年の審議会ではがんばったけれどだめだったということになるのか。

○ 吉田課長

今の基本計画は18年度から22年度の5年間である。基本計画と実施計画の関係は参考資料で説明したとおり整合性はあるが、あくまで実施計画の数値は前年度の実績や実現可能な施策展開を元に作成している。

基本計画は17年度以前の基本計画との対比からいわば崇高な目標値を掲げている。現状と乖離はあるが、年次ごとの実施計画で検証し、次期の基本計画策定の際に審議会のご意見をいただきながら新たな基本計画の目標を整理していききたいと考えている。

○ 大川会長

資料1で中核市の比較が出ていたが、中核市レベルではそれなりの成績である。がんばっているけども自らの計画目標との乖離が大きいということであれば、実態を踏まえて下方修正してもおかしくないと思う。

○ 吉田課長

審議会のご意見を踏まえながら努力をした結果であり、よければより高いハードルを課し、悪ければ見直しを図り、結果として次期基本計画に反映させていききたいと考えている。

○ 大川会長

1年ごとに、きちんとした施策を打ち実効あることをやっているかを審議して、その積み重ねとして、基本計画が合わなければ実情にあわせて次の計画値を設定するということ

だと思ふ。

経済情勢や景気によってもごみ量や構成比が変わってくるため、基本計画の計画値そのままではいけないということではない。1年ごとの評価が重要である。

○ 石川委員

いつも思うのだが、減量したことによって結果こういう効果があったという具体的な何かがほしい。

減量すれば何でもよいというわけではなく、我々がどちらの方向に向かっているのかわかるよう数値化や具体的に表すなどして計画に盛り込めるのであれば検討していただきたい。

○ 大川会長

今までの流れのとおり計画値を立てて進捗管理していくことも立派なことだが、他のベンチマークがあってもよいのではないかということである。確かにそのとおりである。

○ 吉田課長

一般廃棄物ゼロ・エミッションでの目標でも次世代に環境負荷を残さないといった抽象的な目標になっている。より説得力ある目標の設定は今後の検討課題と考えている。

○ 大川会長

これまでは削減目標しか出てこないが、いわき方式というのがあってもよい。

○ 神崎委員

燃えるごみと燃えないごみの組成調査だが、資源がまだ相当入っている。それを除ければ相当減量が図られると思う。また、計画書案7ページで「ごみの排出方式のあり方の調査・研究」という施策がある。最終的には限られた予算との兼ね合いになるのだろうが、市民の利便性の向上といった観点から、お年寄りには門柱まで取りに行くといった事や、規格袋の数を増やすことなどいろいろな研究が必要だと思う。

それから、この審議会は市長に答申するわけだが、市議会ではどういう状況になっているのか教えてほしい。

○ 吉田課長

市議会では環境関係の予算や施策について「環境経済常任委員会」の中で審議している。一般廃棄物基本計画や実施計画なども議論されており、限られた予算の適正配分により市民サービスの向上を図っていくことについて、環境分野に特化した話ではなく全庁的に行っているところである。

○ 大川会長

「排出方式のあり方の調査・研究」や「ごみ処理手数料のあり方の検討」は、これまでの政策によりかなり安定した減量効果が出ているが、課題もあるのでそれを含めて検討していくということだと思う。

○ 和田委員

仙台市は昨年10月から有料化している。私も見てきたが、有料化の自治体は増えているのではないか。

○ 大川会長

これは慎重にやる必要がある。1人1日あたりのごみ量が現在1,105グラムであり目標の950グラムまでもう少しである。有料化すれば確かにごみ量は減るので首長が最後の手段として判断する時期が来るかもしれないが、減量化は進んでおり、まだそこまで至って

ないのではないかとと思われる。

○ 吉田課長

和田委員のご指摘であるが、環境省もガイドラインを出しており、有料化を検討するのであれば追い風になっている。その一方で市民の努力によりごみ減量効果が現れるなど相反する要素もある。情報収集などの研究は進めているがそのような状況である。

○ 大川会長

ごみがどんどん増えていけば有料化という議論になるのだろうが、計画には及ばないながらもごみ減量は着実に進んでいる。このような状況では今すぐという話にはならないのではないかと。

○ 和田委員

ハンドブックであるが、4月は異動時期でもあり転入者が多くなる。これは市民課の窓口で配布しているのか。

○ 遠藤係長

転入届を出した際に環境整備課に寄っていただくように案内しこちらで配布している。

○ 和田委員

ぜひ、配布を徹底していただきたい。

○ 大川会長

転入時のワンストップサービスをやっている市もある。これは環境整備課だけの問題ではないが、いわき市ではあちこちにいかなければならない。

○ 武田委員

そのとおりである。寄ってもらったら渡すということではなくて、届出を出したら一式まとめてという対応が必要だと思う。

○ 武田委員

6 ページの家庭用生ごみ処理機の補助制度は何年も続いているが、生ごみ処理のやり方を個人でなく、公民館や自治会でもやるようにという施策展開は出来ないのか。

また、事業者には食品リサイクル法の情報提供をするという話が先ほどあったが、市民にもこういうやり方があるという情報提供がもう少しあってもよいと思う。

○ 吉田課長

補助制度の開始以来ずっと同じやり方を続けてきたが、生ごみの減量は3Rを進めるなかで大事けれどもなかなか進まない分野でもある。ご意見を踏まえながら今後検討させていただきたい。

○ 鈴木（正）

4 ページの環境教育の充実で、小学4年生向け副読本「ごみのおはなし」作成・配布という施策がある。この副読本は大変わかりやすく作成されているが、子どもたちがどう考えているのかという点についてはやや一方通行になっているのではないかとと思う。

ごみ減量は家庭の問題でもあり、家庭の中でよく話し合っごみを減らそうという意識を高めるために、子どもたちが休みなど時間のあるときに「うちではこのようなことをしてごみを減らしている」といったことを宿題でまとめてもらうような取り組みもよいのではないかと。

○ 吉田課長

環境問題全般ということであれば、環境企画課において、夏休みの子供の宿題というか

たちで作文や絵などを募集している。

環境整備課でも、親子をターゲットにした施設見学会の開催や、子供向けの出前講座の中でリサイクルについて考えてみるといった対応はしているが、意見の趣旨を踏まえ、これまでの取り組みに幅をもたせるなどの検討は進めていきたい。

○ **大川会長**

これだけの施策のメニューがあるので、何か意見があれば事務局に伝えることにして議論を閉じたいが、どうしても聞きたいことがあれば発言願いたい。

○ **広木委員**

プラスチックを1年前から燃やすようになったが、炉の状況や補修の状況はどうなっているか、また炉への支障があったのかなかったのか教えてほしい。

○ **吉田課長**

炉への影響がまったくなかったとまでは言えないが、これまでのところ大きなトラブルはない。なお、経年劣化によるものかプラスチック焼却によるものかは判然としないが、消耗品の交換や修繕関係は19年度以降も毎年度実施している。

プラスチックについては最終処分場の延命化ということで燃えるごみに変更したが、最終的にはリサイクルが望ましいと考えており、民間事業者に協力を要請しながらリサイクルの検討を進めている。いずれ具体化してくれば審議会でも議論していただきたいと考えている。

○ **鈴木（司）**

1人1日あたり950グラムと関連して、22年度の人口予測がわかれば教えてほしい。

○ **園部主査**

人口の予測にはいろいろな方法があり一概に言えないが、今現在347,000人で毎年2,000人程度減少しているので、22年度には34万台の前半ぐらいまでは下がるという予測はできる。

○ **大川会長**

ごみ量は人口が変われば変わるし、産業構造によっても変わってくる。他になければ、計画案を了として議論を終了したい。

(3) その他

神崎委員が3月31日付でいわき明星大学を退職することにもない、当審議会の委員も退任したい旨の意向であることを報告し、あわせて神崎委員から挨拶があった。